

皮膚科のご紹介

皮膚科の診療は、皮膚アレルギー疾患、皮膚感染症、自己免疫性疾患、水疱症などの内科系疾患から、皮膚腫瘍などの外科系疾患まで、幅広い疾患が対象となっています。また、感染症で言えば、水虫から壊死性筋膜炎まで、といったように、重症度も様々です。皮膚には、表皮細胞、メラニン細胞、メルケル細胞、血管内皮細胞、免疫担当細胞（肥満細胞、ランゲルハンス細胞など）、末梢神経、立毛筋、脂腺細胞、汗腺、等々、というように多数の細胞、組織が含まれます。加えて、皮膚疾患は視診、触診による細かい分類が可能であるために、診療対象疾患は多岐にわたります。従って皮膚疾患を診断するには、多数の鑑別診断の中からの確に診断を行う必要があります。

また、皮膚疾患の診断は視診、触診によるところが大きいため、素早い診断が可能です。視診、触診により、皮膚疾患の病理組織像をイメージし、その病理組織像を生検で確かめるといった作業は皮膚科での日常診療で行われておりますが、視診、触診による情報は大きいため、概して皮膚疾患は診療を早期に開始することができます。

一方、皮膚科医が視診、触診をして診断を行うと同様に、患者さんも自分で皮膚の症状を見て、触って、ある程度どのような疾患か想像して来院されるのが普通です。また、患者さんがインターネットであらかじめ自分の皮膚症状を調べてから来院されることも少なくありません。そのため、皮膚疾患の診断は、高い専門的知識が求められます（平たく言うと、ごまかしが効かない、といえます）。

さらに、高齢化社会の中で、加齢とともに生じやすくなる皮膚疾患は増加するため、皮膚科の重要性は今後高まると予想されます。

皮膚疾患の治療は、内科的な薬物療法から、紫外線やレーザーを用いた物理的療法、外科的な手術療法、に大別されます。それぞれ、皮膚疾患の特性、重症度に合わせて、治療方針を選択します。当院ではこれらの幅広い治療法を研修することができます。当院皮膚科は大学病院にも匹敵する患者数、疾患の多岐性があり、皮膚科の市中研修病院としては望ましい環境です。

当科では、独断に陥ることを防ぐために、外来患者についてはカンファレンスで情報を共有し、入院患者については回診を全員で毎日行っています。皮膚科外来は3診体制で行っています。午前診は毎日あり、午後の診療は週に2日あります。また、外来手術日が午後に週2日、入院手術日が午後に週1日あります。カンファレンスは週に1回です。また、入院患者は8人前後あります。この皮膚科の週間スケジュールの中で、研修を行って頂きます。

具体的には、外来では、皮膚科医の指導の下、診断、治療、処置の研修を行ってまいります。手術日には手術の研修を行います。また、カンファレンスにも出席してもらい、discussionに参加して頂きます。入院については、主治医を担当してもらい、指導医の下、入院患者の診療に当たって頂きます。また、研修中には、希望により、学会発表、論文発表も行うこともできます。なお、当院は日本皮膚科学会の皮膚科専門医研修施設であり、当科での研修期間は皮膚科専門医の取得のための研修期間に含まれます（学会入会が必要です）。

写真: 皮膚科外来診察室

